

札幌医科大学医学部医学科 卒業時のコンピテンス（8領域）とコンピテンシー（42項目）

1. プロフェッショナルリズム

高い倫理観と使命感を持って患者中心の医療を提供し、生涯にわたる学修意欲をもって医学・医療に貢献できる。

コンピテンシー	S（初期臨床研修修了レベル）	A（学生医として模範的に関与、行動できる）	B（臨床実習開始時点での能力）	C（医学生の基盤となる能力）	D（経験・修得のみ）
1. 医療倫理と生命倫理の原則を理解し、具体的状況に応用できる。	指導医の監督下で、患者・家族・医療チームとの対話に参加し、合意形成に資する提案ができる。	患者や家族の価値観を尊重した態度で議論や場面に参加し、他の学生の手本となる行動をとることができる。	倫理的問題が生じた場合に、自らの判断の限界を認識し、指導医やチームに相談できる。	医療倫理・生命倫理の基本原則を知識として理解している。	自らの学習経験として、倫理的課題の存在を認識している。
2. 法的規範の根底にある倫理的考え方を説明できる。	実習で遭遇する事例に即して、法令遵守の要点と倫理的配慮を整理し、指導医の監督下で患者・家族やチームに分かりやすく説明できる。	患者や家族とのやり取りの中で、その法的規範が倫理的にどのような意義をもつかを意識した行動ができ、他の学生の模範となる。	医療法規に関連する基本的事項を知識として理解し、それらの規範の背景にある倫理的考え方（例：患者の安全を守るための義務、個人情報保護の尊重）を簡潔に説明できる。	医療関連の基本的法規の存在を理解しており、その制定の背景に倫理的な考え方（患者の権利、公共の利益など）があることを認識できる。	倫理と法の関連性について学び始めており、基礎的な理解を持つ。
3. 生と死に関わる倫理的な問題を多角的に認識した振る舞いができる。	指導医の監督下で、倫理カンファレンス等に参加し、患者の価値観を尊重しながら、法的・社会的側面も含めて丁寧なコミュニケーションを実践できる。	倫理的に困難な場面でも、感情的にならず誠実な態度に関わり、他の学生の良き手本となる行動をとることができる。	生と死に関わる代表的な倫理的課題について基本的な知識を持ち、複数の立場や考え方が存在することを理解している。	生と死に関わる倫理的課題が医学・医療において重要であることを理解している。	生と死に関する倫理的問題についての講義や討論を体験したことがある。
4. 人の命と健康を守る医師の使命と職責を自覚し行動できる。	実習で与えられた役割を適切な範囲で遂行し、困難な状況でも報告・連絡・相談を徹底して、チームの一員として責任ある行動ができる。	患者の命と健康を守るという医師の使命を理解し、臨床実習においてその意識を持った態度・行動を示すことができる。	医師の使命と職責についての基本を理解しており、患者中心の姿勢を意識して学修や実習に臨むことができる。	医師が人の命と健康を守る社会的使命を担うことを理解している。	医師の使命や職責に関する講義や討論を経験している。
5. 医師の法的責任と各種規範について説明できる。	実習の場で生じうる法的・規範的リスクを認識し、指導医の監督下で適切な手順（確認、記録、報告）を踏むことができる。	医師に求められる基本的な法的責任（説明義務、守秘義務、診療録記載義務など）を理解し、実習場面で説明できる。	医師に課せられる基本的な責任と規範（説明責任、個人情報保護、医療安全への配慮）を概説できる。	講義や事例検討を通じて、医師の法的責任や規範が医療の安全性や信頼性に直結することを認識できる。	医師の責任や規範に関する講義・演習を受講した経験がある。
6. 人間の尊厳と患者の立場を尊重した、思いやりのある態度を身に着けている。	患者の尊厳と権利を尊重し、文化的背景や社会的状況の違いに配慮した態度を安定して示すことができる。	実習において、患者の尊厳と立場を尊重した態度で接し、誠実かつ思いやりのある対応を一貫して行うことができる。	患者中心の視点を意識し、患者の立場や気持ちに配慮した態度を取ることができる。	人間の尊厳を尊重することが医療において不可欠であることを理解している。	人間の尊厳や患者の立場を尊重することの大切さについて学ぶ機会を経験している。

札幌医科大学医学部医学科 卒業時のコンピテンス（8領域）とコンピテンシー（42項目）

II. 医学知識

医学・医療 および それらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、修得した知識を統合した形で問題解決に応用し、臨床や研究に有効に活用できる。

コンピテンシー	S（初期臨床研修修了レベル）	A（学生医として模範的に関与、行動できる）	B（臨床実習開始時点での能力）	C（医学生生の基盤となる能力）	D（経験・修得のみ）
1. 医学の基礎となる自然科学の幅広い知識を有し活用できる。	自然科学の基礎知識を統合し、代表的な病態や検査所見の背景を説明できる。	臨床実習において、観察した病態や症状を自然科学の知識（例：生化学的機序、生理学的背景）と関連付けて説明できる。	医学の基盤となる自然科学の基本的な概念を理解しており、疾患や臨床現象に関連付けて説明できる。	医学の基礎にある自然科学の基本的な知識（例：細胞構造、化学反応の基礎、物理的法則）を理解している。	医学の基盤として自然科学の知識が必要であることを意識できる。
2. 基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を有し活用できる。	基礎医学・臨床医学・社会医学を関連づけて理解し、症例の病態理解から診療方針の考え方、予防・社会的支援までを一連として説明できる。	実習で経験する臨床課題を、基礎医学の理解、臨床医学の知識、社会医学の視点と関連付けて説明できる。	基礎医学・臨床医学・社会医学の主要な知識を理解し、それぞれを関連づけて説明できる。	基礎医学・臨床医学・社会医学の基本的概念を理解している。	医学知識が多領域の融合によって成立していることを意識できる。
3. 人体の正常構造や機能、生命科学に関する基礎知識を疾患病態の解明に応用できる。	正常構造・機能の理解に基づき、代表的疾患の症状や検査異常を論理的に説明できる。	実習で観察した症例について、人体の正常構造や機能の知識をもとに病態を説明できる。	正常な人体構造や機能の基礎的理解を有し、疾患の病態と関連付けて説明できる。	正常と異常の違いを知識として学び、疾患理解の基盤となることを認識している。	生命科学や基礎医学の入門的な講義や実習を経験している。
4. 疾病の病因・病態・治療につながる医学的な要素を説明できる。	臨床所見を用いて、治療方針の考え方（適応・禁忌・副作用の要点）を指導医と議論できる。	臨床で得た所見を、病態や治療選択に関連付けて理解できる。	代表的な疾病について、基本的な病因・病態・治療の関係を説明できる。	疾患の理解には「病因」「病態」「治療」が密接に関連していることを知識として理解している。	病因・病態・治療の関連性を学び始めており、その重要性を認識している。
5. 医学の進歩と発展のために自己研鑽する重要性を説明できる。	医学の進歩により標準治療や診療指針が変化し得ることを理解し、自己研鑽の必要性を具体例で説明できる。	医学の進歩に伴い知識が更新され続けることを理解し、自らの学び直しの姿勢を示すことができる。	臨床実習に臨む姿勢として、自己学習を継続する意欲を示すことができる。	医学が固定された知識体系ではなく、進歩・発展を続ける学問であることを理解している。	医学の進歩や自己研鑽の重要性に関する講義や体験的学習に参加した経験がある。

札幌医科大学医学部医学科 卒業時のコンピテンス（8領域）とコンピテンシー（42項目）

III. 医療の実践

全人的医療を提供するため、統合された医学的知識と技能に基づいた診療計画の立案、ならびに診療を実践できる。

コンピテンシー	S（初期臨床研修修了レベル）	A（学生医として模範的に 関与、行動できる）	B（臨床実習開始時点での能力）	C（医学生の基盤となる能力）	D（経験・修得のみ）
1. 病歴を正しく聴取し、身体診察を適切に行い、病状を判断できる。	得られた情報から緊急度を意識して問題リストを作成し、鑑別の方向性と初期対応の考え方を説明できる。	指導医の下で、患者からの確に病歴を聴取し、標準的な身体診察を行うことができる。	病歴聴取と身体診察の基本的な手順を理解し、典型的な症例に対して実践できる。	講義や演習、シミュレーションを通じて、限られた範囲で病歴聴取や身体診察を実践できる。	病歴聴取や身体診察のデモンストラクションや演習に参加した経験がある。
2. 病歴や身体所見から必要な検査を選択し、結果を評価できる。	主訴と所見から臨床課題を整理し、指導医の監督下で必要な検査の候補を挙げ、目的・適応・リスクを説明できる。	指導医の下で、病歴と身体所見から適切な検査を提案できる。	病歴や身体所見から、代表的な疾患を想定して基本的な検査を選択できる。	主要な検査の種類（血液検査、尿検査、心電図、X線など）を知識として理解している。	基本的な検査の概要について講義や実習で触れた経験がある。
3. 臨床情報を整理して臨床推論を行い、診断することができる。	病歴・所見・検査を構造化して整理し、主要な鑑別診断を挙げ、妥当性を根拠とともに説明できる。	実習中の症例について、病歴・所見・検査を整理し、鑑別診断を提示できる。	診断に至るための情報整理を行い、推論の初歩的なプロセスを実践できる。	講義や演習を通じて、簡単なケースに対して推論の流れを試みることができる。	臨床推論の基本的な考え方や手順について講義やシミュレーションで触れた経験がある。
4. 根拠に基づいた医療技術を個々の状況に応じて正しく実践できる。	基本的臨床手技について、適応と安全管理の要点を理解し、指導医の監督下で正確に実施できる。	実施した技術を振り返り、根拠に照らして改善点を見出すことができる。	標準的な方法を踏まえて行動し、実施後に自らの理解を確認することができる。	講義や演習、シミュレーションを通じて、基本的な医療手技の概念や安全管理の重要性を学び始めている。	医療技術の習得とその根拠の理解が必要であることを意識できる。
5. 医療安全、感染症対策を実践できる。	標準予防策と基本的な医療安全行動（確認、ダブルチェック、報告・共有）を、実習の場で安定して実践できる。	実習の場で、標準予防策や基本的な医療安全の原則を実践できる。	医療安全の基本概念と感染症対策の基本（標準予防策の意義）を理解している。	医療安全や感染症対策の基本的な考え方を講義や演習を通じて理解している。	医療現場で安全と感染防御が不可欠であることを意識できる。
6. 災害時の医療について説明できる。	災害医療に関する基本概念（トリアージ、資源配分、指揮系統、搬送）を理解し、想定事例に基づいて説明できる。	災害医療に関する基本概念（トリアージの考え方、応急処置、搬送など）を説明できる。	災害時の医療の基本的枠組み（トリアージの存在、災害拠点病院の役割など）を理解し、説明できる。	災害医療の概念（通常時と異なる資源配分、集団対応の必要性など）を知識として理解している。	災害医療に関する講義やシミュレーションを見学・体験した経験がある。

札幌医科大学医学部医学科 卒業時のコンピテンス（8領域）とコンピテンシー（42項目）

IV. 問題対応能力

新たな展開に向けて健全な批判力をもって現状に潜む課題を明確化し、科学的根拠と適確な方法に基づいて問題を解決できる。

コンピテンシー	S（初期臨床研修修了レベル）	A（学生医として模範的に関与、行動できる）	B（臨床実習開始時点での能力）	C（医学生の基盤となる能力）	D（経験・修得のみ）
1.医学・医療において既存の知識や技能では対応できない問題を抽出できる。	指導医やチームに適切に相談しながら、追加学習や専門家への確認が必要な点を提案し、学習課題として整理することができる。	実習中に経験する症例や課題の中で、既存の知識・技能だけでは十分に理解・対応できない点を明確にすることができる。	問題を抽出する姿勢を学修や実習の中で示すことができる。	医学・医療には既存の知識や技能では対応が難しい課題があることを知識として理解している。	問題解決に関する講義やケーススタディに参加した経験がある。
2.問題の解決に向けて、関連する情報を収集して分析できる。	得られた情報を症例の状況に照らして解釈し、指導医に分かりやすく説明して次の行動を提案できる。	情報の信頼性を意識しながら、複数の情報源を比較して分析できる。	自らの理解が不十分な場合には、教員や指導医に相談できる。	講義や演習を通じて、問題解決のためには情報収集と分析が不可欠であることを理解している。	情報収集や課題解決に関する学修体験（例：レポート課題、グループ学習）を経験したことがある。
3.最新の情報を探索し、問題解決に向けた構想を示すことができる。	指導医の監督下で、得られたエビデンスを踏まえた実行可能な対応案（目的、主要ステップ、必要な相談先、評価の観点）を簡潔に示すことができる。	指導医の下で、臨床課題から検索語を設計し、複数のソースを横断して最新の情報を収集・整理し、チームに分かりやすく共有できる。	見つけた情報を要点化し、解決に向けた初期構想（目的・主要ステップ・必要な相談先）を示すことができる。	最新情報の探索が医療の質向上に不可欠であることを理解し、主要情報源の種類（総説、ガイドライン等）を説明できる。	医学知識が更新され続けること、課題解決には新しい情報の探索が必要であることを意識できる。
4.問題解決のための構想を科学的根拠に基づいて実行できる。	科学的根拠に基づく対応案を、指導医の監督下で実習の範囲内に落とし込み、具体的な行動として実行できる。	実施した結果を振り返り、改善点を見出し、次に活かそうとする態度を示すことができる。	科学的根拠を参照しながら問題解決の構想を立て、その一部を実行するための基本的な手順を説明できる。	科学的根拠に基づいた構想を立てることが問題解決に不可欠であることが理解できる。	科学的根拠に基づいた構想を実行する必要性を意識できる。
5.問題解決と課題探求能力を高めるために、生涯学習が重要であることを説明できる。	医学知識が進化し続けることを踏まえ、生涯学習が医療の質と安全に直結することを具体例で説明できる。	臨床実習において、課題探求や問題解決に生涯学習の視点が重要であることを理解し、積極的に学修に取り組む態度を示すことができる。	医学・医療の進歩に対応するために、生涯学習が必要であることを理解し、説明できる。	生涯学習が医師の専門性を維持・向上するために重要であることを知識レベルで理解できる。	医師として学び続ける必要性があることを認識できる。

札幌医科大学医学部医学科 卒業時のコンピテンス（8領域）とコンピテンシー（42項目）

V. コミュニケーション

人々の多様な価値観や社会的背景を理解し、信頼関係の構築に努め、常に他者に敬意を払って接することができる。

コンピテンシー	S（初期臨床研修修了レベル）	A（学生医として模範的に関与、行動できる）	B（臨床実習開始時点での能力）	C（医学生の基盤となる能力）	D（経験・修得のみ）
1.礼儀と礼節を重んじ、相応しい身なりと振る舞いができる。	緊張を伴う場面でも冷静さを保ち、患者・家族・多職種に対して敬意ある言葉遣いと態度で接し、周囲に安心感を与えることができる。	患者や家族、指導医、医療スタッフに対し、敬意を持った言葉遣いと態度で接し、他の学生の手本となる行動をとることができる。	基本的な礼儀作法を理解し、清潔で相応しい服装・身だしなみを整えて臨床実習に参加できる。	身だしなみや振る舞いが他者に与える影響を理解し、学習者として相応しい姿勢を意識できる。	医学生として身なりや態度を整えることの重要性を説明できる。
2.信頼関係を意識し、患者やその家族と対話を重ねることができる。	患者・家族の不安や価値観を把握しながら、信頼関係を意識した対話を継続して行うことができる。	医療者と患者の関係構築に積極的に関与する姿勢を持つことができる。	信頼関係を意識して、誠実な態度で接することを心がけることができる。	模擬患者やロールプレイを通じて、相手の話を傾聴し、敬意を持って対応する態度を示すことができる。	患者や家族と信頼を築くための対話の必要性を意識できる。
3.医療チームの一員として多職種連携を円滑に図り、相互理解の構築に努めることができる。	意見の違いがある場合も、患者中心の観点を踏まえて調整し、指導医の助言を得ながら相互理解の促進に寄与することができる。	他職種の役割や視点を理解し尊重しながら、患者のために協働する姿勢を持ち、模範的に行動できる。	医療は多職種の協働によって成り立つことを理解し、各職種の役割の基本について説明できる。	講義や演習を通じて、多職種連携の意義を理解している。	他職種と協働することの重要性を意識できる。
4.指導力と協調性をもって診療や保健指導の基礎を実践できる。	基本的な臨床場面で、自分の役割を理解して協調的に行動し、必要な準備・説明・記録を適切に実施できる。	診療や保健指導の基礎的な場面で、積極的に役割を担い、協調的に行動できる。	他の学生や医療スタッフと協調し、与えられた役割を責任を持って遂行できる。	保健指導や診療におけるコミュニケーションの基礎について説明できる。	協調的に振る舞うことの重要性や、指導的役割の必要性を意識できる。
5.人々の価値観や社会的背景が多様であることを理解し、常に他者に敬意を払って接することができる。	価値観が異なる場面でも、相手の語りを丁寧に聴き、必要に応じて指導医や多職種と相談しながら、公平で配慮ある関わりができる。	異なる考え方や行動様式に出会った際にも、柔軟かつ誠実に対応できる。	基本的な敬意を持った言葉遣いや態度で患者・家族・医療スタッフに接することができる。	講義やロールプレイを通じて、他者に敬意を払う態度の重要性を学び、演習の場で意識して行動できる。	他者に敬意を払って接する必要性を意識できる。

札幌医科大学医学部医学科 卒業時のコンピテンス（8領域）とコンピテンシー（42項目）

VI. 科学的探究

研究遂行のための基礎的素養と探究心、および研究倫理をもって医学研究に参画し、医学の発展に寄与することができる。

コンピテンシー	S（初期臨床研修修了レベル）	A（学生医として模範的に関与、行動できる）	B（臨床実習開始時点での能力）	C（医学生の基盤となる能力）	D（経験・修得のみ）
1.先駆的な医学研究は社会全体の幸福につながることを説明できる。	研究倫理の基本を踏まえ、研究の意義と限界を一般の人にも分かりやすく説明できる。	最新の研究成果や技術の社会的インパクトに関心を持ち、学びを仲間に共有し模範的な態度を示すことができる。	医学研究の進歩が医療や社会に大きな影響を及ぼすことを理解し、その重要性を説明できる。	医学研究は人類全体の健康や社会の幸福に貢献するものであるという理念を説明できる。	研究が社会に貢献する可能性があることを意識できる。
2.医学研究を遂行する意欲と基礎的素養を有している。	研究計画の基本を理解し、指導医の下、データ収集・整理・簡単な解析や考察ができる。	研究活動に積極的に参加し、基本的な研究手法（文献検索、データ収集、簡単な解析など）を実践できる。	基礎的な研究の進め方（課題設定、方法の選択、データの扱い方など）の概要を説明できる。	医学研究に必要な基礎的素養（科学的思考、批判的吟味、データの客観的解釈など）の重要性について説明できる。	医学研究が医学の進歩に不可欠であることを認識できる。
3.科学的思考に基づいた探究心を身につけている。	得られた情報の質や限界を意識して批判的に吟味し、学習や症例検討の改善に活かすことができる。	臨床実習中に遭遇した疑問を科学的に捉え、解決のために文献検索や情報収集を行うことができる。	疑問点を言語化し、適切な方法（教員への質問、基礎的な文献調査など）で解決しようとする姿勢を示すことができる。	科学的思考とは観察・仮説・検証を基本とするプロセスであるということが理解できる。	医学・医療を科学的に考える姿勢の重要性を意識できる。
4.医学的知見を獲得するための科学的な理論や方法論、研究倫理について説明できる。	観察研究と介入研究の違い、バイアス、統計の基本概念など、医学研究の代表的な方法論を要点として説明できる。	臨床実習や研究活動への参加を通じて、医学的知見を得るための基本的な方法論について説明できる。	医学的知見を得るための基本的な科学的理論（仮説検証、観察研究と介入研究の違いなど）を理解し説明できる。	科学的知見は理論や方法論に基づいて獲得されるということを知識として理解できる。	医学的知見が科学的手法と倫理に基づいて得られることを意識できる。
5.個々の症例に新規性が含まれていることを理解し説明できる。	症例の特徴を既存知識と比較して整理し、学びや示唆（診断上の落とし穴、治療選択の工夫等）について説明できる。	実習で経験する症例の中に、既存の知識だけでは説明しきれない点や新しい示唆を含む可能性があるということが理解できる。	経験した症例について、学術的な疑問点や特徴を整理し、他者に説明することができる。	個々の症例が学びの源泉となりうることを理解している。	症例に新規性が含まれうるという視点の存在を意識できる。

札幌医科大学医学部医学科 卒業時のコンピテンス（8領域）とコンピテンシー（42項目）

VII. 地域医療

幅広い視野をもって地域医療の役割と課題を説明できる。地域医療に意欲的に取り組む姿勢とともに、実践に必要な基礎的知識と技能を身につけている。

コンピテンシー	S（初期臨床研修修了レベル）	A（学生医として模範的に関与、行動できる）	B（臨床実習開始時点での能力）	C（医学生の基盤となる能力）	D（経験・修得のみ）
1.地域社会の健康の向上および増進の重要性とそれに向けて果たすべき役割を説明できる。	地域の主要な健康課題を把握し、医師が担う基本的役割（診療、予防、連携）の全体像を説明できる。	地域社会における代表的な健康課題を把握し、医学生の立場で果たすべき役割を説明できる。	地域社会の健康の向上や増進が重要であることを理解し、医師がそのために果たすべき基本的な役割（診療・予防・啓発など）を説明できる。	地域社会の健康に関する基礎知識を持ち、健康の保持・増進が医学の重要な目標であることを理解できる。	地域社会の健康増進というテーマの存在を認識できる。
2.社会経済における地域医療の位置付けについて説明できる。	地域医療が社会保障制度や地域の生活基盤と関係していることを理解し、医療資源の限界や公平性の観点から基本的な課題を説明できる。	医療資源が限られた環境における課題を把握し、効率的かつ公平な医療提供の重要性を説明できる。	地域医療が社会経済において重要な役割を果たすことを理解し、医療が地域住民の生活や福祉に直結していることを説明できる。	地域医療が社会保障や地域社会において一定の役割を持つことを知識として理解している。	医療が社会や経済に影響を及ぼすという基本的な事実を意識できる。
3.プライマリ・ケアを実践するための基礎的な知識と技能を示すことができる。	指導医の監督下で、患者の生活背景や地域資源も考慮した初期対応の提案と、適切な相談・紹介の判断ができる。	患者の主訴を全人的に理解する姿勢を持ち、生活背景や地域資源を踏まえたケアを模範的に学ぶ態度を示すことができる。	地域医療においてプライマリ・ケアが果たす役割について説明できる。	講義や演習を通じてプライマリ・ケアの意義を概説できる。	基礎的診察や患者対応に関心を持ち、その学習の必要性を認識できる。
4.地域における医療専門職の役割を理解し、協調して医療を実践できる。	地域の医療・保健・福祉に関わる職種の役割を具体例で説明でき、実習での連携場面に適切に参加できる。	実習において他職種の役割を理解し、患者ケアの一部に協調的に関わることができる。	実習において他職種に敬意を持って接し、指導を受けながら協調的に行動する姿勢を示すことができる。	グループワークやロールプレイにおいて、協調的な態度で参加できる。	他職種と協働する必要性を意識できる。
5.地域医療の中で国際化に関する課題を説明し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮できる。	臨床実習で、多職種・地域資源の活用を念頭に、文化的配慮を意識したコミュニケーションをとることができる。	地域医療における国際化の課題について基礎的に理解し、実習中の学びに活かすことができる。	文化や価値観の多様性に配慮する必要性を説明できる。	異文化に配慮した対応の重要性が認識できる。	多様な価値観を尊重する必要性を意識できる。

札幌医科大学医学部医学科 卒業時のコンピテンス（8領域）とコンピテンシー（42項目）

VIII. 国際貢献

疾病の臨床や研究の世界的動向を把握し、国際社会の一員として活動するための基礎を身につけている。

コンピテンシー	S（初期臨床研修修了レベル）	A（学生医として模範的に関与、行動できる）	B（臨床実習開始時点での能力）	C（医学生の基盤となる能力）	D（経験・修得のみ）
1.国際交流に関心を示し、多様な文化を理解することの重要性を説明できる。	国際交流が医療の質向上や視野の拡大に資することを説明し、異文化理解の必要性を具体例で述べるができる。	臨床実習を通じて、異なる文化的背景を持つ人々との交流の意義を理解し、その重要性について説明できる。	国際的な視点を持つことの意義を理解し、学修や実習に反映しようとする姿勢を持つことができる。	国際交流や文化的多様性が医学や医療に影響を与えるということが理解できる。	医学における国際性や文化的多様性の存在を意識することができる。
2.健康増進や疾病予防の活動を国際的視野に立って実践する基礎的能力を身につけている。	感染症、生活習慣病、母子保健などの国際的課題を概説し、予防の基本戦略（ワクチン、保健教育等）について説明できる。	異なる文化や社会背景を尊重しつつ、疾病予防に関する知識や態度を他者に説明できる。	健康増進や疾病予防が国際的に重要な課題であることを理解し説明できる。	健康増進や疾病予防が世界的に共通する課題であることが理解できる。	健康増進や疾病予防が国際的な文脈で重要であることを意識できる。
3.医療・保健に関わる国際協力の役割を説明できる。	国際協力の主要な枠組み（国際機関、NGO等）の役割を説明でき、協力が保健システムや健康格差に与える影響を概説できる。	国際協力の基本的な仕組み（医療支援、人材育成、資源配分など）を理解し、その意義を説明できる。	医療や保健における国際協力の役割についての基本的部分を説明できる。	医療や保健分野において国際協力が行われていることを知識として理解している。	医療や保健の国際協力が存在することを意識できる。
4.疫学、疾病予防、福祉、医療経済などの社会医学の知識を国際医療活動に応用できる。	疫学指標や予防の考え方、医療制度・福祉・医療経済の基礎を理解し、国際的な健康課題の分析に用いることができる。	疾病予防や保健活動の場で、社会医学的視点を意識し模範的に行動できる。	国際的な医療課題に取り組む際に、社会医学的視点が必要であることについて説明できる。	社会医学の基礎知識（疫学の基本概念、一次～三次予防、医療制度の概要など）を理解している。	社会医学の知識が国際的な医療活動に役立つ可能性を意識できる。
5.国際社会における医学的な諸問題を説明できる。	感染症、非感染性疾患、母子保健、医療アクセス格差など主要な国際的健康課題を整理して説明することができる。	国際社会における医学的問題（例：パンデミック、保健資源の不均衡、国際協力の課題など）を具体的に説明できる。	国際社会における代表的な医学的問題（感染症流行、栄養不良、貧困と医療格差など）の基本的事項について説明できる。	国際社会に医学的な問題が存在することを知識として理解している。	世界的に共通する健康課題があることを意識できる。